第　34　号　　平成26年10月31日

研究だより

香川大学教育学部 附属坂出小学校

ごあいさつ －教科別授業研究会実施に向けて－

研究主題

対話を通した「思考力」の育成

－「育てるカウンセリング」を生かして，個々の考えを広げ深める授業づくり－

本校の「思考力」育成を目指す研究は，今年で12年目になります。本年度は，「育てるカウンセリング」の考えを取り入れて，授業づくりに生かすことを目指しています。通常のカウンセリングは，個人と個人の対話を通じて治療を行います。一方「育てるカウンセリング」の考え方では，グループでの対話を通じて課題を解決し，成長を援助することが目的とされます。対話を可能にするには，多様な考えが生まれるように，教材や授業構成の工夫が必要です。対話を通じ，どのような思考力が育成されるのか，また何が必要とされるか等についても検討が必要です。本年度はこれらの課題に取り組みます。

現在，体育館や特別教室の耐震改修工事を行っているため，例年のようにシンポジウム等を伴う研究会を行うことができませんが，３日間にわたり教科別の授業研究会を行うことにしました。ぜひ，大勢の先生方にご参会いただき，「思考力」の育成について議論を交わすことができればと切に願っております。

香川大学教育学部附属坂出小学校長　松村（まつむら）　雅文（まさふみ）

本紙は，教科別授業研究会の最終案内を兼ねています。詳細は，12ページをご覧ください。

研究の概要

対話を通した「思考力」の育成
ー「育てるカウンセリング」を生かして，個々の考えを広げ深める授業づくりー

1　研究主題について

対話とは一般に，「向かい合って話すこと。相対して話すこと。二人の人がことばを交わすこと。」（『広辞苑－第６版－』）を意味し，ことばを介して人と人とが関わることです。本校では，このような対話の，他者とことばを介して関わる働きに着目しながら，「思考力」の育成を図ろうとしています。それは，子どもどうしが，主体的に，それぞれの考えを重ね合わせて新しい考えを生み出したり，互いにさまざまな道筋から一つの真理にたどりついたり，時に，考えを対立させ折り合いをつけたり等しながら，自分の考えを広げ深めていくことを目指すものです。

2014年３月，国立教育政策研究所教育課程研究センターより，『資質や能力の包括的育成に向けた教育課程の基準の原理』が報告されました。そこでは，これからの子どもたちに必要とされる「21世紀型能力」が，今後の教育課程や授業づくりに反映されていくことが求められています。この21世紀型能力は，基礎力・思考力・実践力の３層から構成されており，その中核として位置づけられる思考力が次のように定義されています。

> 一人一人が自ら学び判断し自分の考えを持って，他者と話し合い，考えを比較吟味して統合し，よりよい解や新しい知識を創り出し，さらに次の問いを見つける力
> （国立教育政策研究所，『資質や能力の包括的育成に向けた教育課程の基準の原理』，2014年，vii頁）

ここからは，これからの社会に対応するために必要な力としての思考力に，「他者」との関わりという要素が含まれていることが分かります。よりグローバル化していくこれからの社会においては，多様な考えをもった人々が，対話をしながら問題解決を図ることが必要であり，これからの時代を生きる子どもたちには，その力の育成が求められているのです。

2　研究副主題について

私たちが，このような対話を促進するための手がかりとしているのが，「育てるカウンセリング（Developmental Counseling）」です。育てるカウンセリングとは，一般的に「カウンセリング」ということばからイメージされる「治療的なカウンセリング（Therapeutic Counseling）」とは異なる働きをもつものです。心理的な側面へと働きかけていく点では，治療的カウンセリングと同様ですが，右の表にあるように，集団を対象とし，全教育活動の中で，子どもたちの発達を促進していくものです。したがって，子どもと子どもの円滑な関わりが必要となる対話を促進する際には，この育てるカウンセリングが，有効な手がかりになると考え，授業づくりに生かそうとしています。

治療的カウンセリング		育てるカウンセリング
治療を要する子ども（個）	対象	健全なすべての子ども（主に集団）
面接の時間	位置づけ	全教育活動
個人面接	方法	主にグループアプローチ
病理行動の除去・緩和	目的	発達課題を解決し，成長を援助する

3　研究の具体

○多様な考えを生む支援

教材や授業構成を工夫しながら，クラスに多様な考えが生まれるようにしていきます。

○対話を促進する支援

「育てるカウンセリング」を生かし，主体的に互いの考えを関わらせるために必要な技能を高めたり，対話がしやすくなるような雰囲気づくりを行ったりしていきます。

実　践　報　告

国　語　科　第３学年「２年生に自然のかくし絵クイズを出そう －『自然のかくし絵』－」

西岡（にしおか）　由都（よしくに）

「思考力」とその育成に向かう対話

【単元で育成したい「思考力」】

目的に応じて各段落の中心文を捉える中で，文と文の関係を見いだす力

【「思考力」の育成に向かう対話】

異なる中心文を選んだ者どうしで，その選択理由を述べ合う。

本時　子どもたちは２年生に，説明文『自然のかくし絵』の写真と本文から，「虫はどこでしょう。」とクイズを出し，解説にするための１文を選ぼうとしています。

【自然のかくし絵クイズ】

本時は，昆虫が鳥にくわえられている写真です。解説に用いる候補として，「昆虫が動いた時には，食べられてしまう」という文と，「鳥は，わずかな動作も見逃さない」という文の二つが選ばれました。個々の選択理由を述べ合う際，道徳の時間に学習した，「相手の意見も受け止めながら，自分の意見を積極的に伝える話し方」を，掲示や話型カードを用いて振り返らせました。それによって子どもたちは，「〇〇さんの考えがよく分かったよ。教えてくれてありがとう。でも，私は…。」と，温かい雰囲気の中で，自分たちの理由を述べ合えました。

【選んだ理由を述べ合う】

そして，このような対話をする中で，お互いに選んだ文と文の関係が，理由とその根拠になっていることを見いだし，それぞれの子どもが，２年生にどのようなクイズの解説をするかを決めていくことができました。

国　語　科　第５学年「川野さんの意見と理由との関係について考えよう －水そうのメダカをめぐって－」

尼子（あまこ）　智悠（ともひさ）

「思考力」とその育成に向かう対話

【単元で育成したい「思考力」】

例示された話を聞き，理由が意見にふさわしいかどうかを吟味する力

【「思考力」の育成に向かう対話】

理由が意見にふさわしいかどうかについて考えをもち，なぜそう考えたのかを友達と伝え合う。

本時　教師が作成した「メダカについての意見文」を聞き，理由が意見にふさわしいかどうか吟味し，自分の考えをまとめる言語活動を行いました。教室で自分のメダカを大事に育てている経験を基に，子どもたちから多様な考えが生まれるよう，メダカを教材に使用しました。「水槽で飼っているメダカは幸せだ」という意見と「エサがもらえるから」という理由との関係について考えた際には，エサの量や水質等，自分たちの飼育の経験を基にさまざまな観点から考えが表出されました。そして，対話の際は，教師が伝え方を演示することで，相手の考えを自分の吟味に生かすという目的に合った対話が促されました。また，演示によって対話の手順が明確になり安心して臨むことができました。自分の考えとその理由について伝え合うことで「初めは川野さんの理由が意見にふさわしいと思っていたけれど，エサがもらえても水質が悪くなりやすいから幸せだと言えないと思うようになりました。だから理由は意見にふさわしくないと思います。」と考えの幅を広げて吟味できました。

【全体での吟味】

【違う考えの友達との対話】

社会科　第４学年「久米栄左衛門が残したもの　ー坂出の発展を支えた塩づくりー」　藤本（ふじもと）　博文（ひろふみ）

「思考力」とその育成に向かう対話

【単元で育成したい「思考力」】

久米栄左衛門が取り組んだ塩田開発について具体的に調べたことを，時間的，空間的，公的視野を広げて人々への影響と関係づけ，久米栄左衛門の業績を捉えることで，地域を開発した先人の業績の意味を再構成する力

【「思考力」の育成に向かう対話】

久米栄左衛門の銅像等が建てられている理由を，塩田開発後のさまざまな立場の人への影響を視点にして話し合う。

本時　久米栄左衛門が塩田開発によって，藩の財政を潤したという考えをもっていた子どもたち。久米栄左衛門の働きが，誰の役に立ったのかを解決していきました。子どもたちは，まず，既習事項を短いことばで書いた付箋を，自分の考えに合うようにノートに貼り，関係図を作りました。次に，図の相違点や共通点を話し合いました。その際，考えの伝え方や根拠の確かめ方をまとめたカード（話の手順カード）を活用して，友達からの「それが分かる文や図はありますか？」等という問いかけに答えることで，自分の考えやその根拠を明らかにしていきました。

【話の手順カードの活用】

【塩田開発と銅像の存続を関係づける】

このような対話によって子どもたちは，藩の財政だけでなく塩田開発に携わったさまざまな人の生活を，より豊かなものにしたことへの感謝の気持ちが銅像等に表れているということに気付いていきました。

社会科　第６学年「巨大金銅仏造営　ー国家プロジェクトを支えたものー」　渡部（わたなべ）　岳史（たけし）

「思考力」とその育成に向かう対話

【単元で育成したい「思考力」】

巨大金銅仏造営を中心に調べ，時間的・空間的・公的視野を広げることで事象相互を関係づけ，その影響や携わった人々の思いや願いを捉え，国家事業に対する解釈を再構成する力

【「思考力」の育成に向かう対話】

造営の是非について為政者や民の思いや願いの共通点を明らかにし，広い視野から話し合う。

本時　巨大金銅仏の製造方法や当時の状況を知った子どもたちが「聖武天皇は巨大金銅仏を造るべきだったか」を話し合いました。しかし，「天皇の苦悩から仏教に頼るしかない」「民の負担増から造るべきではない」という意見にとどまり，豊かな生活と関係づけて考えることができませんでした。そこで，空間を広げ，自国にはない巨大金銅仏を見た外国人という視点を加え，天皇や民，それぞれの立場で意見交流をしました。大仏造営を支えた技術力が外国との交流を活性化させ，生活向上につながることを見いだしました。また，焼失し民の寄付で再建されたという事実から，現在まで大切に受け継がれてきたことにも気付きました。その後，新たに得た知識を含め「造るべきだったか」を再度話し合いました。日常的に関わりの多い生活班の４人で知識を共有し，考えを伝え合うことで，全体の場で多くの子どもが安心して発表することができました。そして「巨大金銅仏は生活を豊かにしたいという天皇と民の気持ちをつないだもの」と捉えていきました。

【時間・空間的視野を広げる板書】

【安心して話せる生活班】

算数科　第１学年「どこにあるのかな　ーなんばんめー」

白川（しらかわ）　章弘（あきひろ）

「思考力」とその育成に向かう対話

【単元で育成したい「思考力」】

数え始めの位置を表すことば（左から，前から等）と順番を表すことば（～目）に着目し，ものの順番を表す数の数え方や表し方を捉える力

【「思考力」の育成に向かう対話】

見る人の位置と対象の向きを変えて表したものの順番について，その異同を話し合う。

本時　数え始めの位置を表すことばに着目しながら，一列に並んでいる動物の順番を表す活動を通して，順序数の数え方や表し方を捉える力の育成を目指しました。この「思考力」の育成には，上記の対話を通して，「ものの順番は，数え始めの位置をどこにするかによって，ものの順番の表し方が変わる」ことに気付かせることが大切です。

【見る位置や向きを変えられる教具】

そこで，見る位置や向き等，自由に状況を変えながら動物の順番を表すことができるような教具を準備しました。この教具により，「列の向こう側から見ると，パンダは左から２番目」「ゴリラを先頭にすると，パンダは前から４番目」等と，動物の順番を多様に表していきました。

【動物の順番を話し合う】

後の対話の場面では，失敗を恐れず自分の考えを伝えることができるように，あらかじめ教師が失敗したときの気持ちを話したり，友達の考えを最後まで集中して聴けるように対話の時間を指定したりしました。そうすることで，対話を通して，「同じ動物でも，さまざまな表し方ができる」ことに気付き，ものの順番を表す数の数え方や表し方をより深く捉えていくことができました。

理科　第４学年「すごいぞ！電気の力　ー電気のはたらきー」

濟城（さいき）　智哉（ともや）

「思考力」とその育成に向かう対話

【単元で育成したい「思考力」】

乾電池のつなぎ方や光電池への光の当て方に着目しながら，モーターの回り方と回路を流れる電流とを関係づけて電気のはたらきを捉える力

【「思考力」の育成に向かう対話】

モーターの回り方と回路を流れる電流を測定した結果を基に，乾電池のつなぎ方や光電池への光の当て方の違いを話し合う。

本時　子どもたちは光電池を使い，モーターの回り方をいろいろな速さに変えて，自分のおもちゃ作りに生かしたいと思っています。そこで，光電池にどのようにして光を当てると速さが変わるのかを調べることにしました。

【回り方の違いを確認】

子どもたちは，「おおいの枚数」「光の当たる角度」等を視点にして最高速や最低速を見つける活動を行い，「おおいを６枚にして遮り方を調節したら，電流も１番弱くなって１番遅くできた。」等，さまざまな調節の仕方を見つけていきました。光の当て方の違いを話し合う際，道徳の時間に学習した「あたたかい言葉シャワー」を想起させ，発言を受容するあいづち等をうつようにすることで，意見に自信のない子も自ら発言しようとする姿が見られました。

【当て方の違いを話し合う】

「そして，おおいの枚数，光の当たる角度，ライトからの距離のどれを変えても，１番遅くできる。それは，電流の強さを１番弱くすることができるからだ。」と光の当て方の共通点に気付き，電気のはたらきを捉えていきました。

生活科　第２学年「生きもの大すき」

中家（なかや）　啓吾（けいご）

「思考力」とその育成に向かう対話

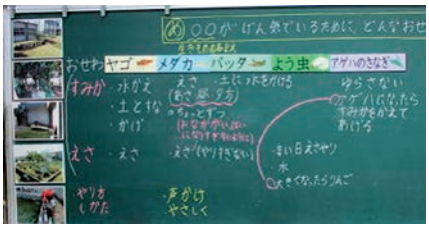
【単元で育成したい「思考力」】

生き物を飼育する活動の中で，これまでの失敗・成功経験を基にして，自分が飼育している生き物への関わり方を工夫する力

【「思考力」の育成に向かう対話】

○　同じ生き物を飼育している友達どうしでグループになり，さまざまな関わり方を話し合う。
○　数種類の生き物について，生き物に応じた関わり方を話し合う。

本時　子どもたちは，これまで飼育してきた生き物がこれからも元気でいるためにどんな世話をすればよいかを考えていきました。写真を用いて採集場所を想起させることで，子どもたちは「バッタを見つけたのは，体育館の裏の草むらの中だったなあ。」等と，その時の様子を思い返していきました。そして，「草をたくさん入れよう。」等と，住みかや餌を，住んでいた環境に近づけるために工夫することを多様に見つけていきました。



【採集場所の写真を基に想起】

【世話について対話】

対話の際は，ふだんから用いている「話を聴くための三つのルール」を意識して，相手の方に体を向け，相手を見て，うなずきながら，友達の意見を受容的に聴くことができました。そして，友達の考えの中から気付いていなかった世話のしかたに気付きました。その後，学級全体に考えを広げることで，それぞれの生き物に合った世話が大切であることに気付いていきました。

音楽科　第４学年「拍子の違いを感じ取ろう －『エーデルワイス』『トルコ行進曲』『ラバースコンチェルト』『メヌエット』－」

溝渕（みぞぶち）　佳子（けいこ）

「思考力」とその育成に向かう対話

【単元で育成したい「思考力」】

拍子と音楽を形づくっているその他の要素との関わり合いから生まれる曲想を基に，音楽の表す情景を豊かに想像する力

【「思考力」の育成に向かう対話】

同じ拍子の２曲を聴き比べ，思い浮かべた情景を話し合う。

本時　同じ３拍子で調の違う２曲のメヌエットを聴き比べました。子どもたちから「１曲目はピアノで２曲目はリコーダーの音だね。」「明るい感じと暗い感じだよ。」「２曲目はゆったりした感じの曲だ。」といった音色や調・速度等の音楽を特徴づける要素とつないだ発言が出てきました。そこで，それらの要素に着目して再度曲をじっくりと聴き味わうことにより，子どもたちは「リコーダーの音色は，独りぼっちでさびしい表情で踊っている感じがする。」等，より具体的に情景を思い浮かべていきました。

【情景を膨らませる板書】

【思い浮かべた情景を対話】

ペアになり思い浮かべた情景を伝え合う活動では，「ピアノの音色から弾んでいる動きを思い浮かべたけれど，友達はにっこりした表情を思い浮かべているよ。」や「私は音色と調を考えたけれど，友達は速度についても考えているね。」等と違いに気付いていきました。さらに，全体交流を通して情景を表すことばが増え，「２曲目は，少し薄暗いところで悲しそうな表情の人が，ゆっくり歩くように踊っている。」と，より豊かに想像することができました。

図画工作科　第６学年「感じたことを絵で伝えよう －『心の中の美術館』－」

小出（こいで）　泰弘（やすひろ）

「思考力」とその育成に向かう対話

【単元で育成したい「思考力」】

美術作品から受けたイメージを深め，それが表れるように，水彩絵の具で表される形や色を吟味する力

【「思考力」の育成に向かう対話】

イメージの根拠となる部分を美術作品上で示し，試しの作品の表し方についての共通点や違いを話し合う。

本時　マチスの作品からイメージしたことがより表れるように，線等の形や色を吟味していきました。その際に，ラミネートした図版にイメージしたことをマーカーで直接記し，試しの作品の形や色についての工夫を，２色の付箋に短い言葉で記入しました。そして，矢印付きシートで，イメージと付箋で示した言葉をつないで説明し合うことを確認したり，相手の意見に共感しながら聴き合った経験を振り返ったりして，工夫について具体的に共通点や違いを話し合えるようにしました。それにより，「カラフルにしてにぎやかさを表しているのがいいですね。私は線の長さを変えて，楽しく踊っているイメージにしました。」「線の形を変えているのがいいですね。私は赤や黄の明るい色で…。」のように話し合うことができました。それが，「ぼくは，形だけでなく色の種類や明るさを工夫していこう。」等，よりイメージに近づけるための表し方を吟味していくことにつながりました。

【付箋で工夫を表示】

【矢印付きシートで説明】

家庭科　第６学年「衣服を気持ちよく整えよう」

芳我（はが）　清加（さやか）

「思考力」とその育成に向かう対話

【単元で育成したい「思考力」】

洗濯の仕方を多面的に見直し，解決法を総合的に捉える力

【「思考力」の育成に向かう対話】

異なる解決法を考えている者どうしが，考えと理由を話し合う。

本時　ニンヒドリン溶液で汚れを検出した手袋を手洗いし，「汚れがよく落ちた」と実感している子どもたち。干しておいた手袋を再度観察すると，まだ汚れが残っていることに気付きました。子どもの認識と事実にずれを生じさせ，「よりきれいに洗う方法を考えたい」という課題意識を明確にしました。自力解決場面では，洗濯の三要素（水・力・洗剤）を色分け表示したシールと洗濯の工程表を活用し，「洗剤を多めに入れる」や「強く洗う」等の工夫をワークシート上に明示しました。それを基に，資料と照合しながらグループで工夫の妥当性を話し合う際には，朝の活動を想起させ，友達の話に集中して聴くこつやルールを確認しました。「グラフから，洗剤量０～１（基準量）では，洗剤が増えるほど汚れ落ちがよくなるけれど，１～２は変わらないね。」「だから基準量以上に洗剤を増やしても効果はないね。」等と話し合いました。全体交流が進むと，「力や洗剤が強くなると色落ちにもつながる。」という考えが出され，「『〇〇をする』工夫には，いいことだけでなく困ったことが生じる場合もある。」と長所・短所の両面から洗濯の工夫を考える重要性に気付くことができました。

【シールと工程表で工夫を明示する】

【資料を根拠に話し合う】

体育科　第２学年「水の国へ　レッツゴー！　～表現遊び～」

山路（やまじ）　晃代（あきよ）

「思考力」とその育成に向かう対話

【単元で育成したい「思考力」】

全身を使って楽しく踊るために，お気に入りの生き物になりきりながら場面に合った動きを選ぶ力

【「思考力」の育成に向かう対話】

急変する場面の動きの異同を同じ生き物を選んだ者どうしで話し合う。

本時　メダカやザリガニ等，自分のお気に入りの生き物になりきって踊る際，急変する場面を入れるともっと楽しく踊ることができそうだということを友達の動きから気付くことができました。そこで，教師がいろいろな敵役になり，「鳥が来たら，見つかると怖いので，急いで岩の後ろに隠れるよ。」等と，イメージを膨らませていきました。そして，それぞれが抱いたイメージを「イメージボード」を用いて話し合うことで，具体的な動きを見つけていきました。その際，朝の活動で行っている聴くことを意識する「発表の手順カード」を活用したことで，「ジェットコースターみたいに上から下に勢いよく潜って隠れる動きが楽しそうだな。」「手を大きく振り上げて戦う動きは同じだけど，左右に動きながら戦うといいな。」と友達の考えを聴き，「私も手を上下，左右に動かしながら戦う動きをやってみよう。」と，場面に合った動きを選んでいきました。

【動きのイメージを話し合う】

【「戦う」を動きに】

その後，友達に敵役になってもらいながら，全身を使って逃げたり，隠れたりする等の動きを生み出し，楽しく踊ることができました。

体育科　第３学年「決めるぞ着地！　ー台上前転ー」

山本（やまもと）　健太（けんた）

「思考力」とその育成に向かう対話

【単元で育成したい「思考力」】

理想とする台上前転の動きを目指して，着地から順に局面をさかのぼり，自己の課題を設定する力

【「思考力」の育成に向かう対話】

台上前転で具体的に課題となる動き（体の部位の位置や強さ，タイミング等）を，お互いに伝え合う。

本時　子どもたちは，理想の動きを拡大した写真と自分の動きとを比較し，「着地が決まらないのは，その前の回転ができていないからだ。」等と，局面を順にさかのぼることで，失敗の原因となった局面を的確に捉えていきました。

ペア対話の場面では，朝の活動や道徳の授業と同様に，ペアを固定せずに交流することで，受容的な雰囲気の中，多くの友達と意見交換しました。その際，誰が，どのように話すかをチャートで示した「手順シート」を用いました。跳ぶ側は見てもらう相手に「手の着く位置を見てね。」と，事前に声をかけることで目的意識を高めて練習することができました。見る側は，「前よりできてきたけれど，写真と比べると少しだけ手を着く位置が手前だったよ。」等と助言することができ，活発に伝え合う姿が見られました。その後の全体対話では，さらに具体的なポイントが数多く共有されました。「私は回転に課題があったけれど，次はその中でもへそを見て回ることに気を付けて練習しよう。」等，課題設定の視点が増えたことによって，自己の課題を適切に設定することができました。

【拡大写真の提示】

【「手順シート」を用いて】

体育科(保健)　第３学年「毎日 元気にすごそう －毎日の生活とけんこうー」

渡辺（わたなべ） 博美（ひろみ）

「思考力」とその育成に向かう対話

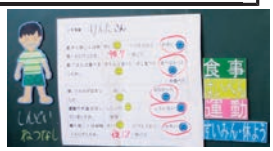
【単元で育成したい「思考力」】

健康によい生活と自らの生活を照らし合わせながら，毎日を健康に過ごすための自分に合った課題を設定する力

【「思考力」の育成に向かう対話】

それぞれが設定した課題が適切かどうか，経験を基にしながら話し合う。

本時　保健室に来室した，けんたさんの事例を基に，体調不良の原因と生活のしかたとの関わりを探っていきました。子どもたちは，「早寝・早起き・朝ご飯」が健康によいことは知っています。しかし，体調不良の原因が自分の生活のしかたにあるとは捉えていません。そこで，まず，けんたさんの１日の生活を問診票を見ながら具体的に振り返り，「体の調子が悪いのは寝る時間が遅いことが原因だ」等，体の調子と生活のしかたには関わりがあることに気付いていきました。そして，自分が体調不良のときの生活を，問診票に記入しながら振り返りました。その中で，「私が，頭が痛くなったのは，夜遅くまで起きていたことが原因だったんだ。」というように，自らの課題に気付いていきました。



【生活のしかたを振り返る】

【問診票を基に対話】

その後，問診票を基に，見つけた課題が適切かどうか，生活のしかたとつなげながら話し合いました。その際，「最後まで聴く」等，「話し合いのルール」を意識させることで，自分の体調や生活のことを安心して話し合うことができました。そして，自分の生活をもう一度見つめ直し，「やっぱり私が元気に過ごすには，寝る時間に気をつけることが大切。」等と，自分に合った課題を確かめることができました。

道徳の時間の取り組み

道徳教育目標を「人とのつながりを大切にして，豊かな人間性と，たくましく生きる力を育む」とし，本年度は，次の２点に重点を置いて道徳の授業づくりに取り組んでいます。

①　対話のある道徳の授業を通して，多様な価値観に出合い，自己の考えを深められるようにする
②　道徳の時間と，学校生活や人間関係づくりのスキルを高める活動とを関連づける

第６学年では，自分たちが学級会で決めたきまりやルールが十分に守れていない状況を取り上げ，きまりは何のためにあるのかを話し合うことで，権利と義務について考えていきました。その際，朝の活動の時間に培ってきたアサーションスキルを生かし，友達の考えを尊重しながらも自分の考えを主張していくことで，多様な価値観に出合い，考えを深めていきました。

【権利と義務について話し合う】

また，第１学年では，お話を読む中であいさつの大切さについて考えていきました。素っ気ない返事をする教師と，主人公役の子どものやりとりを見て，主人公役の子どもの感想を聞いたり気持ちを想像したりする場面を設け，あいさつをされなかった相手の気持ちに目を向けられるようにしました。実際に友達にあいさつを行う際は，朝の活動の時間に行った「あいさつ名人になるこつ」の活動とつなぎながら，目線や表情，声の大きさ等相手を意識したあいさつを体験し，対話を通して感じたことを素直に伝え合う子どもたちの姿が見られました。このような実践を通して，道徳的実践力を育成する授業づくりを進めています。

【感じたことを素直に伝える】

外国語活動の取り組み

本校では，小学校学習指導要領に目標として定められている「コミュニケーション能力の素地を養う」際に必要な「思考力」を設定しています。これまでの研究では，「学習問題設定の場」「『気付き』の場」「アクティビティの場」の三つの場それぞれにおいて適切な支援を行うことで「思考力」育成を目指してきました。特に昨年度は，「Hi,friends!」を手がかりにして年間指導計画を作成しました。その中で，「アクティビティの場」や高学年における言語や文化に関する「『気付き』の場」を位置づけて，学年間の系統性を重視した取り組みを進めてきました。

さらに本年度は，全学年において「学習問題設定の場」を，低・中学年において，「感覚を通して体験的な気付きを促す場」を設定し，実践を積み重ねています。

第２学年の「どの形が好き？」では，身の回りにある形を集め，日本語と英語の表現を比較することで，形を表す単語の中には，英語で表現されているものがたくさんあることに気付いていきました。また，第６学年の「世界の行事と日本の行事」では，同じ行事を表す単語でも，文化が違うと，その時期が違っていたり，行事の内容が違っていたりすることに気付いていきました。

【身の回りの形を発見】

【表にまとめて気付きを促進】

このように，「思考力」を育成する授業を，年間計画に位置づけながら計画的に実践し，より一層，外国語活動の充実を図りたいと考えています。

書籍の紹介

『カール・ロジャース入門
自分が“自分”になるということ』
諸富祥彦，1997，コスモス・ライブラリー

「教える」ことに偏りがちなわれわれ教師に，子どもを信じ，自ら考えさせることの大切さを学ばせてくれる本です。カール・ロジャースはクライエント中心療法の創始者であり，エンカウンターグループを世に広めた人です。人が本来もっている成長力を援助するという立場で，「受容」「共感」「一致」という三つの条件をカウンセラーに求めています。教師もそれらを基本に，創造的な教材で子どもの好奇心を刺激し，関心を深めることを一つの理想としています。（文：藪内（やぶうち）　雅昭（まさあき））

『対話が生まれる教室
―居場所感と夢中を保障する授業―』
秋田喜代美（編集），2014，教育開発研究所

「教室での対話は他者の声を聴く関係性から生まれる」「豊かな対話には，各教室固有の卓越性と自立性が大事である」「対話が生まれる教室は教職員同士が対話する学校に生まれる」という三つの理念から，授業実践を分析しています。さらに，授業の中で他者に認められケアされることを理解し，自分の担う役割を自覚できる「居場所感」と，学習内容の深まりを支える「夢中」を教室に求めています。「対話」を通した「思考力」育成に向けて参考となる一冊です。（文：森（もり）　真佐純（まさずみ））

『チャートでわかる　カウンセリング・テクニックで高める「教師力」
第１巻　学級づくりと授業に生かすカウンセリング』
諸富祥彦，2011，ぎょうせい

ルールの確立により，どの子も安心して学級生活を送れるようになることは，ふれあいのある人間関係を築くことにつながっていきます。学校生活の大部分を占めるのは教科の授業です。本書では，この教科の授業における，「ルール」と「ふれあい」を大切にした温かな学級づくりの実践例が具体的に紹介されています。また，各章ごとに，学校生活のさまざまな問題場面での対応のヒントや教師の働きかけが，チャート図で示されており，大変活用しやすい一冊です。（文：篠原（しのはら）　智子（ともこ））

『道徳授業で大切なこと』
赤堀博行，2014，東洋館出版社

道徳の教科化に注目が集まる今こそ，現在の学習指導要領に示されている内容や，道徳の授業で大切にしたいことを明確にした授業実践が求められています。本書には，「道徳的価値の自覚及び自己の生き方についての考えを深め，道徳的実践力を育成する」という目標に向かって，いかに授業を構想し，指導方法を工夫していけばよいのかが，具体的な例とともに示されています。道徳の授業づくりにおける不易の部分を振り返ることのできる一冊です。（文：清水（しみず）　顕人（あきひと））

あとがき

副校長　樽本（たるもと）　導和（みちかず）

「育てるカウンセリング」の考えを参考にし，朝の活動や道徳，教科学習において，学級の雰囲気づくり・人間関係づくりに努めています。朝の時間には，各教室から楽しそうな声が聞こえ，自然な形で対話をしている姿が多く見られるようになってきました。これまでの実践における授業討議でも雰囲気づくりや対話技能の向上の効果が確認され，何がよかったのかを具体的に明らかにし，共有しています。

しかし，教科の「思考力」育成の観点からは，「対話が思考につながっていない」「ねらう思考とずれている」「形式的すぎて逆に自己が表出しにくい」「対話をしたくなる構成が必要」等の課題が浮かび，改善案を議論しています。教科の本質を見極め，子どもは「何を思考するのか」「どのように思考するのか」「どんな教材で思考するのか」を想定し，それに合った対話を構成することの難しさを痛感しているところです。

教科別授業研究会の折には，ぜひ多くの先生方から，ご意見をいただければと思います。

教科別授業研究会について（最終のご案内）

○　日時と教科

平成27年	授業Ⅰ	授業Ⅱ
１月25日（日）	１年算数科・４年算数科・５年理科	２年生活科・４年理科・５年算数科
１月31日（土）	１年国語科・３年国語科・５年国語科	３年音楽科・５年家庭科・６年図画工作科
２月１日（日）	３年体育科・４年社会科・６年体育科（保健）	２年体育科・６年社会科

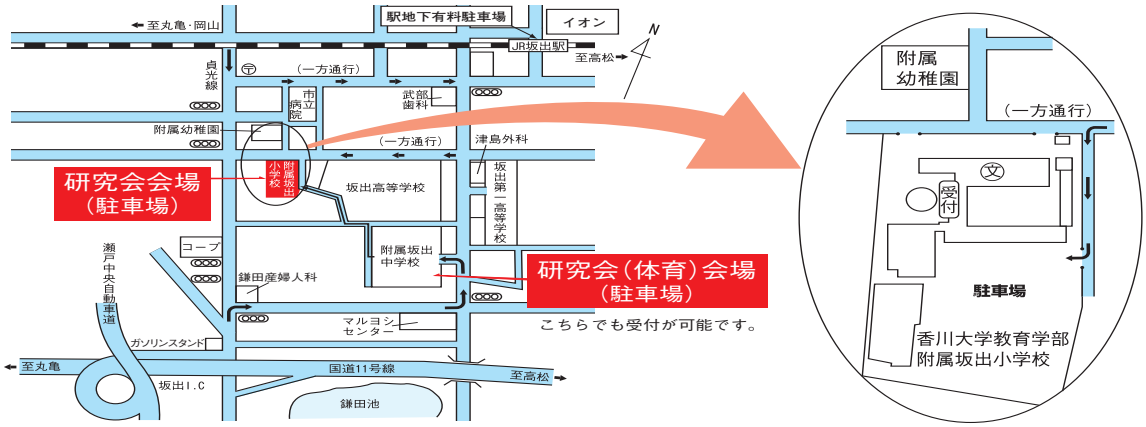
受　付	授業Ⅰ	授業Ⅱ	授業討議Ⅰ	授業討議Ⅱ
8:30～	(9:00～9:45)	(10:00～10:45)	(11:00～11:40)	(11:50～12:30)
		2/1体育科（保健を除く）の討議のみ→	(11:10～11:45)	(11:55～12:30)

※　体育科の授業（保健を除く）は，附属坂出中学校で行います。移動後，討議は小学校で行います。

○　参　加　費　　１，０００円（３日ともご参会いただけます。）

○　本校の位置　　ＪＲ坂出駅下車，南口より徒歩で約１０分。
坂出インターチェンジから，北へ車で約５分。

○　駐　車　場　　附属坂出小・中学校（徒歩約４分）の運動場をご利用ください。
駐車場が満車となる場合がありますので，公共交通機関を，できるだけご利用ください。



○　申 し 込 み　　お手数ですが，**１月13日（火）までに，ＦＡＸ（下記）またはメール**（ E-mail　sakashokenkyu@ed.kagawa-u.ac.jp）でお申し込みください。なお，申込書は本校ホームページからダウンロードできます。

※　当日，受付にて来校者名札をお配りします。児童の安全管理のため，着用をお願いいたします。

※　個人情報保護の観点から個人が特定できる写真，ＶＴＲの撮影はご遠慮ください。

【　編　集　委　員　】
西岡　由都
白川　章弘　清水　顕人
藤本　博文　中家　啓吾
尼子　智悠　山本　健太

平成26年10月31日
香川大学教育学部附属坂出小学校
【 TEL 】　0877-46-2692
【 FAX 】　0877-46-5218
【 URL 】　http://www.ed.kagawa-u.ac.jp/~sakasho/